

2019年度



アウトリーチプログラム報告書



独立行政法人国立文化財機構
文化財活用センター
NATIONAL CENTER FOR THE PROMOTION OF CULTURAL PROPERTIES



東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM

目次

| | |
|---------------------|---|
| ぶんかつアウトリーチプログラムについて | 1 |
|---------------------|---|

プログラム構成

| | |
|-----------------------------|---|
| プログラム①「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」 | 2 |
| プログラム②「屏風体験！松林図屏風をプロデュース」 | 4 |
| プログラム③「絵で読む平家物語」 | 6 |

実施報告

| | |
|-------------------------------|----|
| 板橋区立上板橋第二小学校 | 8 |
| 杉並区立杉並第二小学校 | 10 |
| 三重県立四日市高等学校 | 12 |
| 鷗友学園女子中学高等学校 | 14 |
| 東京都立小石川中等教育学校 | 16 |
| 大田区立馬込小学校 | 18 |
| 【特別編：ぶんかつアウトリーチプログラム×ANAアバター】 | |
| 大分県姫島村立姫島中学校・姫島小学校 | 20 |

教員研修実施報告

| | |
|--------------------|----|
| 大田区教研小中連携図工・美術研究部会 | 22 |
|--------------------|----|

複製品とキットのみの貸し出し実績

| | |
|--------------|----|
| 栃木市立都賀中学校 | 23 |
| 鷗友学園女子中学高等学校 | 23 |

ぶんかつアウトリーチプログラム概要

| | |
|-------------------|----|
| ぶんかつアウトリーチプログラム概要 | 24 |
| Q&A | 25 |
| おわりに | 25 |

文化財活用センターについて

文化財活用センター(ぶんかつ)は、東京、京都、奈良、九州の4つの国立博物館や東京、奈良の文化財研究所など7つの施設を設置する独立行政法人国立文化財機構に2018年7月に開設された組織です。あらゆる地域で、子どもから大人まですべての人びとが、日本の文化財に親しみ、身近に感じて、豊かな体験と学びを得ることができるよう、文化財の活用に関する新たな方法や機会の創出を目指し、情報基盤の整備やコンテンツの開発などを行っています。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9(東京国立博物館 東洋館5階) <https://cpcp.nich.go.jp/>
TEL:03-5834-2856 FAX:03-5834-2857

東京国立博物館について

東京国立博物館(トーハク)は明治5年(1872)に生まれた、日本でもっとも歴史のある博物館で、日本とアジアの伝統文化に触れることができます。日本とアジアの絵画、彫刻、工芸、考古遺物などを常時3000~4000件展示しています。収蔵品の数は11万9000件以上、国宝89件、重要文化財644件を含む質・量ともに日本一を誇る博物館です。

東京国立博物館教育普及室では、小学校・中学校・高等学校のみなさんが学校の授業で博物館を見学するときに参加できる「スクールプログラム」も実施しています。(休館日を除く平日10:00-17:00)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 <https://www.tnm.jp/>
TEL:03-3822-1111(代) FAX:03-3822-3010(教育普及室)



ぶんかつアウトリーチプログラムについて

「ぶんかつアウトリーチプログラム」は、全国各地の博物館・美術館や小学校・中学校・高等学校の、いつもの教室やワークショップスペースなどで文化財に親んでもらうために、文化財活用センター〈ぶんかつ〉と東京国立博物館〈トーハク〉の教育普及室が共同で開発を行っているプログラムです。

2018年から開発を開始し、2019年4月から3つのプログラムの提供を開始しました。2019年度の申込件数は11件（うち1件は新型コロナウイルス感染症による休校措置で延期）、小学校、中学校、高等学校および教員研修で実施・活用いただきました。2020年度は新たなプログラムを加えて、年間15件程度の実施を目標としています。

本プログラムは、博物館・美術館のワークショップや、学校の図画工作・美術・古文の授業はもちろん、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間などでの活用を想定しています。本プログラムの特色は、高精細複製品を活用していることです。文化財の高精細画像などのデジタル技術と伝統的な職人の手仕事によって制作された、肉眼では本物と見分けがつかぬほど精巧な複製品を使用し、国宝や重要文化財、海外の美術館が所蔵する名宝と向き合うことができます。

現在、全国の博物館・美術館で、教育を専門とする部署を設け、専任の職員を配置している館はまだ限られています。日本博物館協会が平成29年に発行した「日本の博物館総合調査報告書」では、各館が力を入れている活動の2番目が教育普及活動であると報告されています。博物館教育の専門の部課係が設置されている館の割合がやや増えていますが、一方で、「担当者も決まっていない」館の割合も増えている状況です。また、学校での鑑賞授業について、日本美術教育学会の2014年度・2015年度の調査によると「重要である」としている学校が90%以上であるにもかかわらず、「授業時数が少なくて鑑賞に充てる時間がとれない」「近くに美術館がない」と回答した学校は50%を超え、授業で「提示する資料が乏しい」との回答は60%を超えています。

こうした状況下にあって、多くの人々に文化財に親しむ機会を提供するために、主に児童・生徒を対象として博物館外で実施できるプログラムを開発し、高精細複製品（原則として無料）の貸し出しを行っています。

プログラムの実施にあたって、〈ぶんかつ〉および〈トーハク〉から講師の派遣も行います。また、プログラムに必要な複製品を含むキット一式のみの貸出も行い、現場の学芸員や学校の教員による実施も可能としました。基本的な流れを理解いただいたうえで、それぞれの目標に応じたアレンジも可能です。

本報告書では、プログラムの概要とともに、講師派遣をした機関での実施内容を掲載しています。文化財に親しむための活動の一助となれば幸いです。

文化財活用センター・東京国立博物館

コラム ぶんかつアウトリーチプログラムができるまで

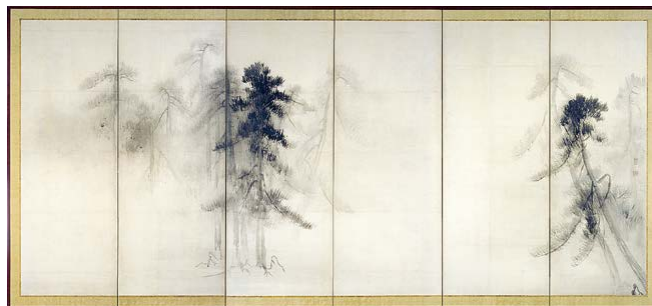
“あらゆる地域で、子どもから大人まですべての人びとが、日本の文化財に親しみ、身近に感じる”ようになることを目的とした教育プログラムです。参加したみなさんが「もっと知りたい」「地域にある文化財についても見てみたい、知りたい、調べたい」「博物館に行ってみよう」など、文化財に興味を持つきっかけのひとつになれば、また継続的に興味をもってもらえればと考えて開発しました。

実施初年度となる2019年度は、2種類の複製品を使用して3つのプログラムを提供しました。プログラムの開発は2018年11月に開始、〈トーハク〉の博物館教育課教育普及室の協力のもと進められました。プログラムの開発にあたっては、ねらいやテイクホームメッセージを考えることから始めました。構成、進行台本については、小中高等学校の図工や美術、日本史や国語科の先生方の意見を取り入れながら見直しを重ね、学校の授業で活用しやすいプログラムを目指しました。さらに、〈ぶんかつ〉および〈トーハク〉の研究者らが講師役や生徒役（時には小学生）になって何度も検証やリハーサルを行いました。

博物館教育の方法論と学校教育の方法論にはことなる点もあり、また学習指導要領の内容も更新されるため、指導要領との整合性を保つための工夫も重要です。現場で活用しやすいプログラムにするために必要な項目立てと内容を模索しながらの開発となりました。松林図屏風のプログラムは約5ヶ月、平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風のプログラムは約8ヶ月をかけ完成しました。

プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう!

使用する複製品 は せ がわとうはく 長谷川等伯筆 こくほう しょうりんずびょうぶ 国宝《松林図屏風》の高精細複製品(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

トーハクが所蔵する国宝《松林図屏風》の複製品を使用した体験型のプログラムです。博物館ではガラスケース越しでないと鑑賞できない屏風ですが、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づいて見ることができます。色やかたち、配置に注目してじっくり見たあとは、屏風型のワークシートに松を描いたり、配置を工夫しながら松の木のスタンプを押したりと、自分だけの松林図屏風を自由につくります。ものづくりを通して文化財を身近に感じることを目的としています。

参加対象 小学校低学年以上

参加人数 最大人数40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分 ※60分や90分など時間を延長して実施することも可能。45分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。

| キット一覧 | 内 容 | 梱包の形態 | 梱包の数量 |
|------------------|---------------------|----------------------------|-------|
| 基本セット | 屏風 6曲1双 | 185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱 | 2個 |
| | ござ 6畳×2枚 | 80×60×10cm 程度の袋 | 1包 |
| | 屏風用照明 | 65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱 | 1個 |
| | ミニチュア屏風(お土産用)・アンケート | 37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ | 1個 |
| | ワークシート | 37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ | 1個 |
| 追加機材等 (投影機器等) | スタンプセット | 37×53×35cm 程度の折りたたみコンテナ | 3個 |
| | スクリーン | 170×20×20cm 程度の段ボール箱 | 1個 |
| | PC・プロジェクターなど | 37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ | 1個 |

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

コラム

このプログラムは、〈トーハク〉で2017年に開催した体験型展示「びょうぶとあそぶ」で実施したワークショップ「スタンプでつくる松林図屏風」をもとに作りました。ワークシートは、松林図屏風に描かれている松が一部を残して削除され、その背景のみが印刷されています。松の部分は作品の画像をもとに制作された5種類のスタンプを制作し、それらを自由に押してオリジナルの松林図屏風をつくる、というものです。余白を生かした原作品の魅力を感じながら、自分なりの画面構成を行うことがテーマのワークショップです。

博物館では原則として作品展示に合わせて教育プログラムを実施しますが、展示制限のない複製品を活用したプログラムなので、通年での実施が可能となりました。松林をそのまま印刷したミニチュア松林図屏風も持ち帰り用に用意しました。自分が作った松林図屏風と組み合わせておうちで展示されたら楽しいな、ご家族の会話のきっかけになったらいいな、と思っています。

1. ごあいさつから導入




| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|-----------|---|
| 5分 | ごあいさつとテーマ | 講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は「自分だけのびょうぶをつくろう!」というテーマで行います。」 |
| | することの説明 | プログラムの流れを説明します(話を聞く→じっくり見る→作る→まとめ) |
| | 屏風を知る | 〔屏風全体が見えるように座ったところからスタート〕 参加者に問いかけながら解説を行います。複製品であることもここできちんと伝えます。 「みなさんの目の前にある絵は日本で有名な作品のひとつです」 「みなさんに近くでよく見てもらえるように、本物をそっくりに作られた複製品・レプリカを持ってきました」 「この絵の形はびょうぶといいますが、みなさんびょうぶって知っていますか?見たことはありますか?」 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたりたや、パーティーションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました。」 |

2. 鑑賞

| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|---------------|---|
| 12分 | 描かれているものを見る | 〔全体を見る〕 まずは遠くから全体を見てもらい、目に入ってきたものを聞いていきます。 「それでは、描かれているものを見ていきましょう」 「何が描かれていると思いますか?」 回答:木、山、など 〔屏風に近づく〕 屏風に近づいて、描かれているものを細かく見ます。 「何の木に見えましたか?」 回答:杉、松、モミの木、など 「実はこれは松の木です。みんな松の木は見たことあるかな?」 「そのほかには何か見えましたか?」 回答:空気、大気、霧など |
| | 配置に注目する | 〔実際の松林の写真を見せる〕 写生ではないことを感じてもらうための質問です。 「写真のような風景は見たことありますか?」 「写真の松林と比べて、同じところや違うところはあるですか?」 回答:色が無い、松の本数が少ない、何も描かれてないところがある、など |
| | 色に注目する | 墨一色で描かれていることを伝えるための質問です。 「何色が使われていますか?」 回答:黒、灰色、白、茶色など 「墨の表現(太い線や細い線、筆の向きなど)はどうですか?」 |
| | 描かれている風景に入り込む | 参加者が想像をはたらかせ屏風に描かれている風景に入り込めるような質問をします。 「季節はいつ頃だと思いますか?」 回答:春、夏、秋、冬など 「何時ごろの風景だと思いますか?」 回答:朝、夜明け、夕方、夜など 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 回答:自分の足音、風の音など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。 |
| 2分 | 松林図屏風について知る | 〔作業机の席に戻る〕 松林図屏風について簡単に解説します。 |

3. 制作

スタンプを使用した制作が基本。墨で描きたい、モノクロームではなく色をつけたいなど利用者の目的に応じたアレンジも可能。その場合に必要な画材は利用者で用意。

| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|------------------|--|
| 15分 | 作り方の説明 | 自分だけの松林図屏風をつくります。使用する画材の説明を行います。 「ここからは皆さんに屏風の作者になってもらいます」 制作中は参加者が作った作品を見てまわり、声掛けも行います。 ※時間内に制作が終わらない場合は、スタンプを数セット延長して貸し出すこともできます。(伝票をお持ちしますので、使用後は着払いにてご返送ください。)  5種類の松のスタンプ (10セットあります) ○使用するスタンプ、ワークシート  ワークシート左  ワークシート右 |
| 2分 | ワークシートを折って屏風をたてる | 博物館から持ってきたびょうぶと同じ置き方になるように、折り方を解説します。 |

4. まとめ

| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|---------------|--------------------------------------|
| 5分 | まとめ 終わりのごあいさつ | 頑張ったところや工夫したところを聞き、プログラムのまとめをして終了です。 |

※利用者の目的に応じたアレンジが可能。

配布する持ち帰りキット

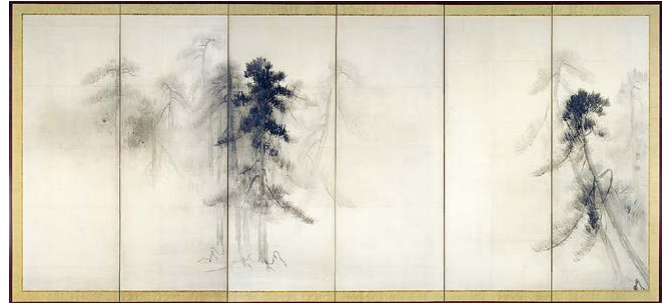
参加者ひとりにつき1セット配布。
学校で実施する場合もお渡しします。



※本プログラムの開発には墨田区立業平小学校の南育子先生(図画工作・当時)、東京都立本所高等学校の森田真理子先生(美術・当時)のご協力を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

プログラム② 屏風体験！松林図屏風をプロデュース

使用する複製品 は せ がわとうはく 長谷川等伯筆 こくほう しょうりんずびょうぶ 国宝《松林図屏風》の高精細複製品（東京国立博物館所蔵）



プログラムのねらい

国宝《松林図屏風》の複製を使用した対話形式のプログラムです。屏風に近づいて鑑賞し、作品の世界をより身近に感じられる置き方や、魅力を引き出す置き方をグループで話し合い、提案してもらいます。屏風の見せ方を考える体験を通して、文化財に親しむことを目的としています。

参加対象 小学校4年生以上

参加人数 最大40名（学校の場合は1クラスずつの実施を推奨）

実施時間 90分 ※時間を延長して実施することも可能、ただし50分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース（横7メートル×奥行7メートル程度）があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

| キット一覧 | 内 容 | 梱包の形態 | 梱包の数量 |
|------------------|---------------------|----------------------------|-------|
| 基本セット | 屏風 6曲1双 | 185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱 | 2個 |
| | ござ 6畳×2枚 | 80×60×10cm 程度の袋 | 1包 |
| | 屏風用照明 | 65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱 | 1個 |
| | グループワーク用ミニ屏風 | 37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ | 1個 |
| | グループワーク用ワークシート（図面） | 63×20×20cm 程度の段ボール | 1個 |
| | ミニチュア屏風（お土産用）・アンケート | 37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ | 1個 |
| 追加機材等 （投影機器等） | スクリーン | 170×20×20cm 程度の段ボール箱 | 1個 |
| | PC・プロジェクターなど | 37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ | 1個 |

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨
 ※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

コラム


このプログラムは、〈トーハク〉で不定期に行っているワークショップ「屏風体験！」を、学校でもできるようにアレンジしたものです。「屏風体験！」は本プログラムと同じく複製屏風を使用したワークショップです。日常の道具として暮らしの中で使われていた屏風本来の姿を体感してもらい、光の演出によって屏風の魅力を感じてもらうことを目的としています。ワークショップは約2時間で構成されていて、展示室で本物の屏風の鑑賞と屏風の説明を聞き、お茶室へ移動して前半は「屏風の置き方」をテーマに、後半は「明かりが変わると屏風はどう見えるか」をテーマに行われたものでした。アウトリーチプログラムの当初の案では、小学校の授業に合わせて45分に収まる様に作りました。実施報告①で詳細を記しましたが、全員（全グループ）に発表してもらうためにはやはり90分は必要だったため、基本の時間を90分とした経緯があります。

プログラムの内容(基本的な流れ)


1. ごあいさつ

| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|-----------|--|
| 5分 | ごあいさつとテーマ | 〔屏風全体が見えるように座ったところからスタート〕 講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は「屏風体験!松林図屏風をプロデュース」というテーマで行います。」 |
| | することの説明 | プログラムの流れを説明します(話を聞く→じっくり見る→すごいところや特長を見つける→グループワーク→まとめ) 松林図屏風という作品名と、複製品であることをここできちんと伝えます。 |

2. 鑑賞

| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|----------------------|--|
| 8分 | 屏風をひろげる | 講師が参加者の目の前で屏風をひろげていきます。 ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光の合計3つの光でお見せします。  |
| 3分 | 屏風を知る | 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたてや、パーティションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました。」 「この松林図屏風は反対側にも折れるつくりで、ジグザグにしたり、四角く置いたり、さまざまな置き方ができます。」 |
| 20分 | 描かれている松林について | 〔実際の松林の写真を見せる〕 描かれている松林と写真の松林を座った位置で比較します。 写生ではないことを感じてもらうための質問です。 「写真のような風景は見たことありますか?」 |
| | 写真と比較しながら描かれているものを見る | 〔屏風に近づく〕 「写真の松林と比べて、松林の同じところや違うところはありますか?」「松の本数は?」「地面と空の境目はどこだろう?」「色の違いは?」 |
| | 描かれている風景に入り込む | 参加者が想像力を働かせ屏風に描かれている風景に、入り込めるような質問をします。 「どんな音が聞こえてきそうですか?」「天気や気温がどれくらいだと思いますか?」「季節はいつ頃だと思いますか?」「何時ごろの風景だと思いますか?」 なぜそう思ったのか話して質問し、参加者全員へ共有します。 |
| 2分 | 鑑賞のまとめ | 〔グループワークを行う位置へ移動して座る〕 「何も描かれていない空間に何があるのかな、と想像して楽しむことができます」「墨の濃淡を使っていろいろな色を表しているの、いろいろな時間や季節を想像しながら楽しむことができます」など、参加者の意見をもとにまとめます。 |

3. 個人ワーク、グループワーク

| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|--------------------|--|
| 5分 | 課題説明 | グループワークの課題説明を行います。 「ここからは見てきたことを形にするグループワークです」 松林図屏風のすごいところや特長を、初めて見る人に楽しんでもらうための置き方を考えてもらいます。 ワークシート、図面、ミニ屏風の使い方、グループワークの進め方を説明します。 ※屏風の置き方を考える場所(教室など)は打ち合わせ時に相談して決定します。  ○使用するワークシート、図面、ミニ屏風 ミニ屏風 ワークシート |
| 5分 | 自分の意見を書く | 松林図屏風のすごいところや特長を自分で3つ考えて、ワークシートに書きます。 |
| 15分 | みんなの意見をまとめて置き方を考える | 各自で考えた特長をグループで共有し、みんなの意見として3つにまとめます。 そのあと、松林図屏風の3つの特長をはじめて見る人に楽しんでもらうための置き方をグループで考え、その置き方にタイトルを付けます。 |

4. 発表～まとめ

| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|-------------------|--|
| 10分 | 発表 | グループで決めた置き方を発表します。 |
| 10分 | 複製の置き方を変えて実際に体験する | 発表された置き方からひとつ選び、実際に複製をその形に置いて鑑賞します。または、左右の屏風を平行に向い合せて置いて、参加者に松林図屏風の間を歩いてもらいます。 |
| 5分 | まとめ 終わりのごあいさつ | 実際に置いてみた感想を聞いてまとめ、見せ方について解説をして終了します。 |

※最後のまとめ方はお申し込みの目的に応じて、アレンジが可能。

配布する持ち帰りキット

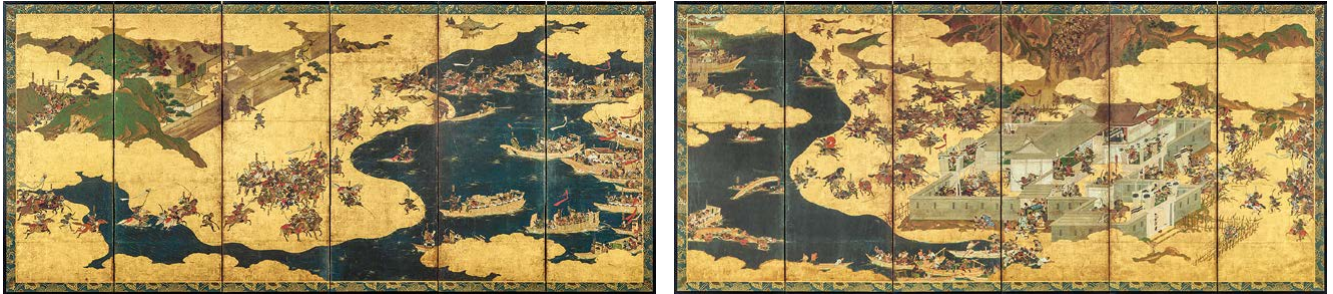
参加者ひとりにつき1セット配布。
学校で実施する場合もお渡しします。



※本プログラムの開発には墨田区立業平小学校の南育子先生(図画工作・当時)、東京都立本所高等学校の森田真理子先生(美術・当時)のご協力を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

プログラム③ 絵で読む平家物語

使用する複製品 へい け もの が たり 《平家物語 いち たに やしまかっせん ずびょうぶ 一の谷・屋島合戦図屏風》の高精細複製品(イギリス・大英博物館所蔵)



© The Trustees of the British Museum (2017).

プログラムのねらい

古典「平家物語」が描かれた《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》(イギリス・大英博物館蔵)の複製を使用するプログラムです。右隻には「敦盛の最期」など、「一の谷合戦」にまつわる21のエピソードが、左隻には「那須与一の扇的」など、「屋島合戦」にまつわる8つのエピソードが描かれています。どちらも教科書でもなじみの深い場面です。原文や現代語訳を参考にしながら、描かれた場面や人物をじっくり見ることによって、自分たちの感性を通して古典を生き生きと学び、文化財に親しむことを目的としています。

参加対象 中学校2年生以上

参加人数 最大40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分 ※60分や90分など延長も可能、45分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 国語、古文、古典、美術など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

| キット一覧 | 内 容 | 梱包の形態 | 梱包の数量 |
|------------------|---------------------|----------------------------|-------|
| 基本セット | 屏風 6曲1双 | 185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱 | 2個 |
| | ござ 6畳×2枚 | 80×60×10cm 程度の袋 | 1包 |
| | 屏風用照明 | 65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱 | 1個 |
| | ミニチュア屏風(お土産用)・アンケート | 37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ | 1個 |
| 追加機材等 (投影機器等) | スクリーン | 170×20×20cm 程度の段ボール箱 | 1個 |
| | PC・プロジェクターなど | 37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ | 1個 |

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

コラム


「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」の複製品は、在外の日本美術の名品の高精細複製品を制作し、日本国内の美術館博物等に寄贈して活用をはかることを目的のひとつとする綴プロジェクト(キヤノン株式会社と京都文化協会による文化事業)によって、2018年に独立行政法人国立文化財機構へ寄贈されたものです。そこで、博物館での活用だけでなく、広く学校等でも活用することを目指して、一からプログラムをつくりました。担当研究員がじっくり鑑賞し、絵の見どころ、鑑賞の視点、方法、子どもたちから何をどう引き出すかなどについて話し合うことから始めました。また、教科書にも取り上げられている平家物語の有名なシーンが克明に描かれているため、美術に限らずに古典や国語の授業などでも使っていただければ古典が生きた体験につながるのではないかと考えました。しかし、描かれている戦闘の場面には子どもたちへの配慮を要する生々しい表現もあったため、平家物語が授業で本格的に取り上げられる中学2年生以上を対象としました。

プログラムの内容(基本的な流れ)

1. ごあいさつ

| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|-----------|---|
| 5分 | ごあいさつとテーマ | <p>（屏風全体が見えるように座ったところからスタート） 講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は「絵で読む平家物語」というテーマで行います。」</p> |
| | 流れの説明 | プログラムの流れ(利用者の目的によって変わります)を説明します。複製品であることをここできちんと伝えます。 |

2. 鑑賞・解説

| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|------------------|--|
| 8分 | 屏風をひろげる | <p>講師が参加者の目の前で屏風をひろげていきます。 ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光の合計3つの光でお見せします。</p>  |
| 5分 | 作品から受けた第一印象を共有する | <p>作品から受けた印象を聞き取り皆で共有していきます 「第一印象は?見てどんな感じがしましたか?」 「何が描かれているように見えますか?」 「この絵の中で、何が起こっていきそうですか?」 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 「どんな匂いがしそうですか?」</p> |

ここまでは利用者の目的にかかわらず、共通して行います。この後の解説は、目的や参加者の意見に応じて、参加者が鑑賞する時間を挟みながら内容を選択して行います。

| | | |
|-----|-----------|---|
| 25分 | 屏風の見方 | 屏風の基礎的な知識として、屏風の使い方、屏風の構造、絵の描かれ方についてお話しします。学校の美術の授業などの場合は、雲や大地の表現、海の色、肌の色、線の描き分けなどに注目しながら、日本画の表現や材料、必要に応じて複製ができるまで、などをお話しします。 |
| | この作品について | モチーフの選び方、構図など絵画作品としての「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」の作品についてお話しします。 |
| | 古典、物語について | 右隻の一の谷合戦から「鶴越の坂落とし」「敦盛の最期」、左隻の屋島合戦から「那須与一の扇的」を取り上げ、描かれた物語の観点からお話しします。 |
| | 歴史などについて | 描かれた表現から、地形や距離、甲冑や刀、公家と武家の身分の違い、源平の違い、物語と史実の違いなどに着目して解説します。 |

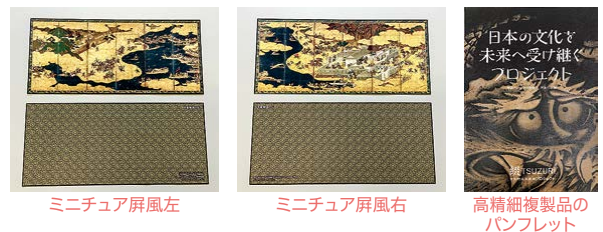
3. まとめ

| 時間配分 | 内容 | 詳細 |
|------|------------------|--|
| 5分 | まとめ 終わりのごあいさつ | 気づいたことや新しい発見など、参加者の意見をまとめてプログラムを終了します。 |

※申し込みの目的と、参加者の意見や発言に応じて様々な観点から解説を実施。利用者ご自身によるアレンジも可能。

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
 学校で実施する場合もお渡しします。



※本プログラムの開発には学校法人 渋谷教育学園 幕張中学校・高等学校の高橋哲先生(日本史・当日)、鷗友学園女子中学高等学校の前澤桃子先生(日本史・進路指導部長・当時)、久保田暁子先生(国語科・当時)、石崎未来先生(油絵・版画・当時)、出口友佳子先生(日本画・当時)のご協力を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

| | |
|---------|--------------------------------|
| 機関名 | 板橋区立上板橋第二小学校 (東京都板橋区小茂根1-14-1) |
| 実施プログラム | プログラム② 屏風体験! 松林図屏風をプロデュース |



| | | |
|---------|---|--------|
| 日時 | 2019年6月15日(土)8:50 - (1時間目・2時間目)8:45 - 10:20 | ※学校公開日 |
| 参加対象・人数 | 小学校6年生 2クラス(当日参加:59名) | |
| 実施場所 | 体育館(校舎3階) | |
| 講師 | 藤田千織(東京国立博物館教育普及室長) | |
| 輸送方法 | 日本通運の専用車両による輸送(搬入・開梱・梱包:くぶんかつ)職員、搬出:学校対応) | |

利用者の目的・ねらい

図画工作:専任の先生より

「6年生の教科書に『墨の詩』という題材があり、筆を作ったり、墨の濃淡を生かした水墨画風に取り組むので、その前に《松林図屏風》に触れ、水墨画への関心を高めたい」
 「平成31年度に校内展覧会を行うので、鑑賞の面白さや見せる展示の仕方についてなども関心をもってもらいたい」

実施までの流れ

プログラム①②いずれかという希望でしたが、電話での打ち合わせの結果プログラム②の方がお申し込みの目的に合うと判断し、②での実施を提案しました。

その後、実施2ヶ月前に学校へ事前打ち合わせに伺い、実施場所の確認とともに内容について先生の意見を伺った結果、全員に発表してもらうことになりました。そのため、全体の時間を90分とし、講師側の人員を増やして2クラス合同で実施することになりました。参加人数が多いことから、打ち合わせ後から当日までに、流れの確認や内容の変更、児童の皆さんへの配置などを含め、7回に及び資料のやりとりを行いました。複製品とキット一式は、前日搬入、翌週返却で対応いただきました。

当日のプログラム内容

基本プログラムに沿って「作品のすてきなところや特長を見つける鑑賞」と、「それを楽しんでもらうための屏風の置き方を考えるグループワーク」という2部構成としました。1時間目を鑑賞、2時間目をグループワークにあて、途中の休憩をはさんで、グループごとにまとめるように体育館内での移動を行いました。1グループ5~6名で12グループをつくり、図画工作担当の先生、担任の先生とくぶんかつ、トーハク側の講師を合わせて、2グループにつき1名の講師を配置しました。発表はすべてのグループが、屏風の置き方を書き込んだワークシート(教室図面)を示しながら、代表者が説明する形式で行いました。各班が示した屏風の置き方を、高精細複製品で実際に再現して体験してもらったのですが、時間の関係でできませんでした。代わりに、複数のグループから提案された左右の屏風を平行に向かい合わせに置き、その間を通りながら鑑賞するという形を実現し、体験してもらいました。

事前・事後学習など

板橋区立上板橋第二小学校の図画工作では、各学年、各学期に1回は鑑賞の授業を実施し、5年生の3学期には、教科書に掲載されている国宝「風神雷神図屏風」を鑑賞して模写などを行っているとのこと。本プログラム実施後には、筆を作り「長谷川等伯に挑戦!」というテーマで水墨画を描く活動を行ったそうです。11月に実施された学校展覧会で展示をする際には、児童たちが自分で「見てもらいたいポイントはどこか」を考え、工夫して自分の作品を展示していました。

参加者へのアンケート内容紹介(一部抜粋)

◇屏風について

- 松林図屏風は墨が濃かったり薄かったりして奥のほうにある松林を薄く描き、近くにあるのを濃く描いたりして、まるで本当にそこにいるみたいに描かれています。墨を薄くするには水をつけ足したりします。松林の絵をすべて描くのではなく、ところどころ描かないというのも不思議で見所でした。このような体験は一生に一度あるかないかのとてもすごいことです。こんなすごいことをできたんだという感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいです。
- 松の木だけじゃなくて、後ろに山みたいなものがうっすらと描かれていて、霧を表しているのかなと思いました。
- 1枚の屏風でも人によって感じ方が違った。多分1本の筆で書いてあって、それで霧の感じとかを表しているすごいと思った。
- 細かい所を見ていると、隠された絵がある。見にくい所に山があったり、木の枝があったりして見つけがいがあっておもしろかったです。
- ひとつの屏風がこんなに面白くなって、ひとつの屏風にいっぱいそうぞうできたのでおもしろかった。
- 初めて屏風を見て、始めてきたときはただの木の絵の何がすごいと思ったんですけど、話を聞いているうちにだんだんどこがすごいのか分かりました。
- 屏風を初めて見て、こんなに大きいんだと思った。最初遠くから見たときは黒いだけだったけど、よく見たらたくさんの筆遣いが見えて素敵だと思った。
- 一つ一つの松の木の色の濃さなどが違って面白かった。様々な工夫がしてあってすごかった。
- 黒と白だけなのに、幻想的できれいですごいなと思った。
- 薄いほうが遠く、濃いほうが近いということが面白かった。
- 墨だけで松を描いているのがすごいと思った。なぜなら自分は墨だけでは松などを表せないからです。昔は今のよう技術はなかったので手だけで描いたのはすごい。
- 1枚の屏風でも人によって感じ方が違った。多分1本の筆で書いてあって、それで霧の感じとかを表しているすごいと思った。

◇置き方について

- 屏風の置き方を考えておくと面白かった。屏風を見ていると新しい発見があるから面白いと思った。
- 屏風は風をさえぎることもできるし、絵も楽しむことができるのですごいと思った。屏風は動かしたりできるからどこでも置いて自由にできてすごいと思った。
- 屏風は置き方や見方などによって変わってくる。雨の日などに見えて面白かった。
- 屏風はライトの明るさ、角度などによって、少し見え方や感じ方が変わるという特徴があると分かったし、本当にちょっと感じが変わっていたのが面白かった。
- どこに置くかもよく分かった。松林屏風だけいいものではなく、しっかり置くところも決められて、すごい達成感が感じられた。
- 屏風をちゃんと見れたので良かった。屏風を展示する時、みんなが見やすいようにするとキレイに見える。

◇こんなことがもっと知りたい

- どのような思いで松林図を描いたのか、詳しく知りたい。どのような工夫をして松林図を完成させたのか知りたい。
- もっといろいろと屏風を見てみたい。いろいろな屏風の特徴を知りたい。
- 屏風ができるまでや、屏風の素材、枠の素材をおもしろそうだから知ってみたいです。あと、屏風の歴史を知ってみたい。
- 置き方によって見え方が違うので、きれいに見せるにはどうしたらいいかが知りたい。
- 他の文化財についても興味を持ったので、詳しく知りたいし、生で見たいです。
- 外国の文化財も見たい。海外にも文化財があるのか気になった。
- 屏風は“様々な置き方がある”と知ったので、具体的にどんな置き方があるのかももっと知りたいと思った。

先生からのご意見・ご感想・参加者の反応など

鑑賞の部分は60対1だとなかなか難しいということがわかりました。また、とてもきめ細かくやりとりしていただき、ありがとうございました。学校や児童の実態を踏まえて授業を考えていくうえで、細かいやり取りは必要だと思います。

その他

毎日新聞 7月4日朝刊に実施風景の写真とともに本プログラムを紹介
NHK総合「社会とつながる複製文化財」くらし☆解説 高橋俊雄 解説委員 2019年12月25日で本プログラムを紹介

| | |
|---------|------------------------------|
| 機関名 | 杉並区立杉並第二小学校 (東京都杉並区成田西3-4-1) |
| 実施プログラム | プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう! |



| | |
|---------|---|
| 日時 | 2019年7月5日(金)9:40-12:20(2時間目~4時間目) |
| 参加対象・人数 | 小学校6年生 3クラス(当日参加:合計79名) |
| 実施場所 | 図工室(校舎地下1階) |
| 講師 | 2・3時間目:小島有紀子、4時間目:西木政統(文化財活用センター企画担当研究員) |
| 輸送方法 | 日本通運の専用車両による輸送(搬入:学校対応、開梱・梱包・搬出:<ぶんかつ>職員) |

利用者の目的・ねらい

図画工作:専任の先生より

「6年生の1学期に毎年『墨で表そう』という活動を行っており、水墨画を見たり、墨で表された作品を見て、墨の特徴を学びつつ、思い思いに表現している。その内容と合わせて、子どもたちの学びにつなげていきたい」
 「日本の伝統・文化教育の一環として、普段の生活に屏風が無い今、本物を前にして体験学習が行いたい。また6年生は歴史を学ぶので、教科を横断した学びにもつなげたい」

実施までの流れ

プログラム①で申し込みをいただき、先生の目的に合致したため①の実施で進めました。
 実施1ヶ月前に学校で事前打ち合わせを実施。実施場所の確認とともに、内容について意見交換した結果、基本的に流れに沿って実施することになりました。打ち合わせ後に、打ち合わせ内容をFAXでお送りし、確認の上で当日を迎えました。複製品とキット一式は、前日搬入、当日搬出で対応いただきました。

当日のプログラム内容

事前学習で墨絵を制作していたため、当日は基本プログラムに沿って「色と配置に注目してじっくり見て、想像することを楽しむ鑑賞」と「自分だけの松林図屏風を作る制作」という構成としました。使用した画材は、キットに含まれるスタンプのみです。また、スペースの関係から、スクリーンおよびプロジェクターの設置ができなかったため、解説にはパネルを使用しました。時間内に制作が終わらない児童もいたため、スタンプを4セット学校へ預け、休み時間や放課後に制作を続けてもらいました。(スタンプは後日、着払返送)

事前・事後学習など

杉並区立杉並第二小学校では、本プログラムに先立って『墨で表そう』という活動を行っていました。授業前に拝見した児童の皆さんの作品は、墨の濃淡の表現や筆の太さ、筆の向きや持ち方などにそれぞれの工夫がよくあらわれていました。

参加者へのアンケート内容紹介(一部抜粋)

◇屏風について

- 屏風はかざりだと思っていたけれど、風通しをささぎるものだというにおどろきました。また、「時刻」や「季節」を考えながら見るのがおもしろいと思いました。夏休みは美術館に行ってみたいなと思いました。
- 近くにあるものは色が濃く、遠くにあるものは色が薄いと分かった。
- 屏風は今まで思っていたものと、全く意味が違ってびっくりした。また、一見すると普通の絵が描かれている屏風だが、実は深い意味が込められていることを知り、すごいなあと思った。
- 色の濃さを変えると立体的に見えて、不思議だなんて思いました。
- 昔の人は黒い墨だけで絵をかき、また、濃淡をいかしていることが分かった。
- 屏風は習字の墨などでも書けることや、見る人によって四季の感じ方が変わったり、時間も変わることを。
- 黒だけで松林の世界観が表されていてすごいと思った。
- 山に見せるように木を斜め上に斜め上に描いていて表現していた。ぼくは木がぼやっと見えたから霧がかかっているなと思った。
- 見る時刻や人によってどんな時に書かれた屏風なのかの感じ方が本当に変わるのだなと見て思いました。墨の濃淡であれだけの松の木を表現できるのがすごいと思いました。まるで、松の木に霧がかかっているように墨を丁寧に薄くかけていてびっくりしました。
- 松林図では松の木を組み合わせ、地味ながら力強い墨の画で興味深かった。屏風では構成が大切だと分かった。
- 実際の写真の色を使わず、墨だけで描いていたこと。墨にも濃淡があること。薄さで山を描いたりしていること。
- 松林図では松の木を組み合わせ、地味ながら力強い墨の画で興味深かった。屏風では構成が大切だと分かった。
- 屏風は美しい日本の文化だということを知りました。昔の人の生活も学べて面白かったです。
- 昔の人が屏風を壁がわりに使っていたことが分かりました。黒で濃さや薄さを使い、様々な風景を表すのが面白いなと思いました。
- 山に見せるように木を斜め上に斜め上に描いていて表現していた。ぼくは木がぼやっと見えたから霧がかかっているなと思った。

◇制作について

- どのようなバランスが良いだろうか、どのような濃さが良いだろうかなどの考えを深められるところが最も面白く感じました。
- わずか五種類の木しか使っていないのにとてもいい作品が描けました。色、形だけでも無数にパターンがあって面白かったです。
- 少しだけ屏風を見たことがあったんですけど、キレイだなあと見ていて、そして自分で作ってみるとすごく難しく困りました。
- わざと木々を重ねて風流さを出せる。間隔をあけると独特の良さを感じられる。
- スタンプで薄く押すのが楽しかったです。昔から今へとつながっているのはすごいと思います。
- 見た風景と同じように色を使ったりしなくても、墨の濃淡、表現の仕方によって、もっと深みのある絵が生まれることにびっくりした。

◇こんなことがもっと知りたい

- 「書いた人がどんな思いで書いたのか」です。理由は墨絵は心や気持ちを表したりすることができるけれど正確にはわからないからです。自分で予想して友達や大人と話し合うのもいいと思いました。
- 今日、僕は屏風を作っていて楽しかったが、実際に昔屏風を作った人もこんな気持ちだったのかが知りたい。
- 実際に博物館に行って、他にはどのようなものがあるのか見てみたいと思いました。
- 黒の濃い、薄いを使って他にどのような表現ができるのか。
- 中国から伝わった文化、日本で生まれた文化、知っていると思っても深く知れていないことがたくさんあるから、これから様々な文化を学んだり、体験したり、知りたいと思った。

先生からのご意見・ご感想・参加者の反応など

近くで見られたことと、生活の道具としての臨場感を得られたこと、ライティングや置き方、動かして見せていただくなど新鮮でした。子どもたちの口から「松林」「霧」などの言葉が出ましたが、実際の松林の風景写真と見比べることで、描かれたモノとの違いや省略された部分についてイメージを膨らませることができていました。また、描かれていない部分は「無」ではなく、そこに空間の広がりを感じ取れていました。見る人、見る時期、心情の変化などによって様々な季節、時間に感じられるという、子どもたちの感じたモノを全て肯定する進め方で、子どもたちの中にもいろいろは感じ方があっていいんだ、という安心感が広がったと思います。それが、子どもたちの主体的な鑑賞の姿勢につながったように思います。

| | |
|---------|-------------------------------|
| 機関名 | 三重県立四日市高等学校 (三重県四日市市富田4-1-43) |
| 実施プログラム | プログラム③ 絵で読む平家物語 |



| | |
|---------|---|
| 日時 | 2019年11月6日(火)10:05-14:15(2時間目～4時間目) |
| 参加対象・人数 | 高校1年生 3クラス(当日参加:合計72名) |
| 実施場所 | 美術室(校舎1階) |
| 講師 | 2・3時間目:小島有紀子、4時間目:西木政統(文化財活用センター企画担当研究員) |
| 輸送方法 | 日本通運の専用車両による輸送(搬入・開梱:〈ぶんかつ〉職員、梱包・搬出:学校対応) |

利用者の目的・ねらい

美術:専任の先生より

「物語が描かれた日本画を鑑賞し、日本美術の特徴を理解することで、今後の授業で実施予定の具合合わせの制作につなげたい」
 「また、平家物語が題材であることから、教科を横断した授業を行いたい」

実施までの流れ

三重県立四日市高等学校では過去にも高精細複製屏風を活用した授業を行なっています。今回はその経験をもとに、先生ご自身に授業案を作成いただきました。
 遠方であったため、メールと電話で事前打合せを行いました。先生の希望により、先生が作成した指導案をもとに授業を行い、鑑賞部分のみぶんかつから派遣する講師が担当することになりました。
 複製品とキット一式は、前日搬入、2週間後のご返却で対応いただきました。

当日のプログラム内容

まずは屏風をじっくり見て、構成や描き方から日本美術の特徴を学びます。次に、グループに分かれて「この屏風をはじめてみる人に、日本の美術やこの屏風について英語で紹介する」という課題に取り組みます。グループワークでは、屏風に近づいて鑑賞を深めたり、意見を出し合いながらまとめていました。最後は紹介文をホワイトボードに書き込み、グループごとに発表します。英語の先生と実際に会話しながら発表するという、教科横断型の授業構成でした。

事前・事後学習など

先生の希望により、プログラム実施後の約2週間、校内に複製屏風を展示しました。展示期間中には、先生の新たな授業案により美術の授業でも屏風を活用いただきました。まず絵画の中から生徒さんが気になる登場人物を選び、人物が取っている姿勢を再現してみます。他の生徒はモデル役の生徒をクロッキーであらわし、人物の表現について学ぶという内容だそうです。「登場人物をじっくり見ることによって、誇張された表現に気づいたり、描かれた戦術について理解を深めたりなど、新たな発見があった」とのご報告を先生から頂戴しました。

参加者の鑑賞授業プリント内容紹介(ご担当の先生が制作されたプリントより抜粋)

◇屏風について

- 迫力と躍動感に圧倒された。照明の変化によって色が全体的に暗くなってなお、絵の躍動感が圧倒的だった
- 金の雲などを用いて場面展開していくところに、とても日本を感じられた。
- 最初に見た印象で、右から左へ物語が進んでいるように感じられた。絵を見ただけでどのような状況なのかがわかったような気がした。
- 音が聞こえてきそうな躍動感があった。
- 細部までしっかりと書き込まれた人物や馬、全体の構図、雲で区切られた場面から、日本の美術作品らしさを感じる。
- 様々なところに物語性があり、有名な平家物語の一部が描かれていて、全体で一つの絵のように見えるが実は違うということに驚いた。
- 資料集などで見る時と違って、細部まで見えてくる感じがした。
- 一筆一筆が丁寧で、状況が迫ってくるような暗いリアルに描かれている。
- 平家物語の本を読んで想像していた様子が、細かく描かれていた。
- 戦いなのに血しぶきが少ない気がする。怖さがあまりなく、見やすかった。
- 細かい描き分けの描写に、この作品の熱量をととも感じた。
- ひとつの絵にたくさんのストーリーが詰まっていた素晴らしかった。
- ひとつひとつの絵は細かいのに、全体としてみるととても迫力がある気がした。
- 自然光で見ると屏風の古さというか、重さのようなものが伝わってきた。
- 線を見るだけで人物の区別ができるほど繊細に描かれていて、時間の流れを表現している。
- 画家の視点が、雲の上から眺めていると思った。
- 2つの屏風を合わせてたてたときに真ん中に濃紺が大きくくる構図がかっこいいと思った。人物が多く、ごちゃごちゃしてしまうが、濃紺があることによって画面がしまっている。

◇新たな発見

- 海や川の青と陸・空の金色が互いに際立っている
- 光の加減によって、金の見え方がかわることがとても魅力的に感じた。
- 右から左に観ていくと、物語を知らなくてもなんとなくわかるな、と思った。
- それぞれのエピソードで、それぞれの人の生死がかかっているのに、屏風の中では時が止まることなく流れて行ってむなしさを感じた。それでも自分の中で印象的な一人に目をつけると、その人の顔や表情、服の細かい部分が浮かび上がってくる。それから周りをみていくとだんだんはっきりとしてくる、そのように屏風を見ていくのも面白いと思った。
- 作られた当時はとてもきらびやかであって好まれていたのが、400年以上経った今は、少々の劣化を伴ってより味がでている。
- 日本の美術は心の美術である。派手でなくてもいい、高くなくてもいい。細かく、丁寧に紡がれた職人の魂を見るものが感じ取ればいい。

先生からのご意見・ご感想、参加者の反応など

当校の生徒にはピッタリな題材となる屏風でした。今回の鑑賞で日本美術に興味を持ち、屏風の鑑賞に楽しさを見出し、感じたことを生徒同士が話したり、放課後再度確認する生徒も多くいました。今回二週間お借りできたことで、2回、クラスによっては3回鑑賞が出来ました。保護者の授業参観が屏風展示の期間中にあり、30名程屏風を見に来られました。保護者の方の美術の興味も凄く、美術館に行かれる方が多く、今回のライトアップされる鑑賞方法を喜んでらっしゃいました。頂いた場面解説のプリントを使い、全ての場面を友人に解説する生徒や、熱心に古典の視点見ながら解説する生徒、戦術を話してくれた生徒など、美術の授業を取っていない生徒とも交流でき、屏風の前で話したくなる平家物語の屏風でした。

その他

ケーブルテレビ シー・ティー・ワイ「ケーブルNews」11月14日(木)放送号で紹介

| | |
|---------|--------------------------------|
| 機関名 | 鷗友学園女子中学高等学校 (東京都世田谷区宮坂1-5-30) |
| 実施プログラム | プログラム③ 絵で読む平家物語 |



| | |
|---------|---|
| 日時 | 2019年12月17日(火)13:00-15:15(特別授業、60分ずつ) |
| 参加対象・人数 | 中学生・高校生の希望者 2クラス(当日参加:合計80名) |
| 実施場所 | PCAVルーム(校舎1階) |
| 講師 | 1講座目:小島有紀子、2講座目:西木政統(文化財活用センター企画担当研究員) |
| 輸送方法 | 日本通運の専用車両による輸送(搬入・梱包・搬出:学校対応、開梱:<ぶんかつ>職員) |

利用者の目的・ねらい

特別授業:国語科と歴史科ご担当の先生より

「古典や日本史の授業の内容を深めたい」
 「本物に触れる、身近で鑑賞する機会を与えたい」
 「日本文化や文化財への興味を引き出すとともに、中学・高校での学習内容と関連づけることで、日本の歴史・文学・美術・生活・伝統文化に対する理解を深めたい」

実施までの流れ

プログラム開発にもご協力いただいた国語科と歴史科ご担当の先生に活用いただきました。実施にあたり、学校での打ち合わせを行い、実施場所と、当日の授業の流れの最終確認を行いました。国語、美術、日本史など様々な授業での学びに繋がるよう、美術や歴史など、それぞれの観点から解説や鑑賞を行い、教科横断型となるように組み立てなおして授業の進行台本を作成し、事前に確認をしていただきました。製品とキット一式は、前日搬入とし、教室での展示を希望されたため、2週間後の返却となりました。

当日のプログラム内容

担当の先生の希望内容と合致するように、国語・美術・日本史など様々な観点から屏風を鑑賞するプログラムとしました。冬休み前の特別授業であったため、学年やクラスが違う生徒さんを対象とした合同授業となったため、中学生でも理解できる言葉で進行了ました。まず、文化財とはどんなものかについて講師が簡単にお話しし、実際に屏風を目の前にして感じたことや気づいたことを参加者全員で共有しながら、描かれた場面や日本美術に特有の表現方法について学びました。最後はこの屏風に描かれた『平家物語』のエピソードをまとめた印刷物を配布し、それぞれが興味をもったところを自由に鑑賞しました。

事前・事後学習など

先生の希望により、講師派遣プログラム実施後の約2週間、校内に複製屏風を展示しました。展示期間中には、特別授業に参加できなかった生徒さんや卒業生たちが、屏風を見に来てくださったそうです。

参加者へのアンケート内容紹介(一部抜粋)

◇屏風について

- そもそも屏風とはどのように使われたか、というお話で実用品であったということが興味深かった。
- 時間軸や流れを見ることができて面白かったです。
- 音や地響きが聞こえてくるようで、引き込まれるような恐ろしさと迫力があつた。
- 遠くから見る時と近くから見るので、その絵の読み方や見方が変わってとても面白かった。
- 陸の金と海の色の対比が生生きと浮かび上がって、とても楽しかった。
- 光の加減や色味が、ひとつの作品に様々な表情を見ることができ、とても幻想的できれいでした。
- 昔の絵画なのに、よりの彩色や、人の顔色がとても鮮やかでした。
- いろいろな見方で見ることは大切だし、楽しいと思った。
- 想像以上に細かく見えて驚いた。
- 馬が海に入っていく音、弓をひいて矢を射る音、かぶとやかちゅうががしゃがしゃなる音が本当に聞こえてきそうだった。
- 金色のところが映え、ほかの暗い色の場所がしずんで見えるので、高低差や立体感を感じた。また、人物が浮かび上がって見えるので、躍動感があつた。
- 屏風の中に同じ人物が描かれていることに驚きました。

◇平家物語について

- 作られた当時における平家物語は、今のように特殊なものではなく、身近な物語であり、有名な史実であったのだと思うととても面白いと感じました。
- 作る人にも見る人にも平家物語の知識があつたことに驚いた。
- 授業で習った人物などが細部まで丁寧に描かれていて面白かったです。
- 鶴越の逆落としや那須与一の話など、知っているエピソードがたくさんあつて楽しかった。
- それぞれの戦いがいちまいの屏風に描かれていていろいろな話が楽しめてよかった。
- 物語の位置関係と、右から左にかけて西へ移動するのがしっかりと分かつた。

◇こんなことがもっと知りたい

- 絵の細かいところをより面白く鑑賞するためには、もっとお話を知ることが大切だと思いました。
- 古典の原典を、もう少し深くたくさんエピソードを知りたいと思った
- 平家物語が描かれた、ほかの屏風にも興味を持った。
- まずは平家物語をしっかりと読みたいと思った。
- 今まで文化財などの美術作品の見方を知らなかつたので、こんなに新しい魅力を知れるのだなと思いました。
- 他の文化財も鑑賞してみたいと思った。
- 屏風そのものについて、もっと知りたいと思いました。
- 屏風を書くときにどのようにして描いたのか知りたいと思いました。

先生からのご意見・ご感想、参加者の反応など

(国語科の先生より)

屏風の説明など、生徒は興味を持っていました。古典や日本史などの枠を超えて楽しめたようです。授業とは違う切り口でおこなっていただき、とてもよかったと思いました。(教員もとても楽しめました。)事前に平家物語の本文確認を生徒としておけば、原文と絵をもっと対称できただろうと思われました。

(歴史科の先生より)

生徒は非常に興味を持ち、くいいるように見えていました。もっとゆっくり見る時間を上げたいです。話が分かりやすく、かつ専門的なことも話していただけて、パワーポイントの解説と屏風に描かれたものの組み合わせが非常にわかりやすかったです。

| | |
|---------|----------------------------------|
| 機関名 | 東京都立小石川中等教育学校 (東京都文京区本駒込2-29-29) |
| 実施プログラム | プログラム③ 絵で読む平家物語 |



| | |
|---------|--|
| 日時 | 2020年1月14日(火)1・5・6・7時間目 |
| 参加対象・人数 | 中学生2年生 4クラス(当日参加:合計120名) |
| 実施場所 | 視聴覚室(校舎1階) |
| 講師 | 1・5時間目:小島有紀子、6・7時間目:西木政統(文化財活用センター企画担当研究員) |
| 輸送方法 | 日本通運の専用車両による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:〈ぶんかつ〉職員) |

利用者の目的・ねらい

古典:国語科ご担当の先生より

「日本の古典作品に、文字でないところからも触れてもらいたい」

実施までの流れ

初めて古典の授業で本プログラムのお申し込みをいただきました。お申し込み時に目的を伺ったうえで、実施2か月前に学校での打ち合わせを行ないました。基本原稿をもとにどんな内容にするかを相談し、「文化財の鑑賞方法」「作品について」「古典の物語」を中心にお話しすることとなりました。事前打ち合わせは1回、メールで3度ほど事務的な手続きについてやり取りを行ないました。複製品とキット一式は、前日搬入とし、3日後に返却で対応いただきました。

当日のプログラム内容

まずは実際に屏風をひるげながら文化財とはどんなものか、またその取り扱いについて簡単にお話ししました。そのあとに、目に入った場面や描かれているものをきっかけとして、授業で習った平家物語の内容を思い出しながら、気づいたことや感じたことをみんなで共有し、近づいてじっくりみる時間を挟みながら、絵画を通して平家物語の世界を味わいました。

また、昼休みには実施場所を開放し、他学年の生徒や先生方にも屏風を鑑賞いただきました。皆さん熱心に眺めていました。

事前・事後学習など

事前に古典の授業で平家物語の学習をしていました。平家物語冒頭・祇園精舎と那須与一の扇的の群読を行なって独特の調子やリズムに慣れる、群読台本の作成をして、武士のものの見方や考え方を知り、登場人物の心情をとらえるといった活動を行ったそうです。また、教科横断による日本史の授業で史実上の源平合戦についても学び、教科を横断してプログラムに臨んでくださいました。

参加者へのアンケート内容紹介(一部抜粋)

◇屏風について

- ひとりひとりが精密に描かれていてすごかった。
- 右から左に時が流れていることを知った。流すように見ると、ちゃんとしたストーリーになっていてすごいと思いました。
- 2つの屏風が1年の差があるのに、同じ瀬戸内海を挟んで並べることで、一つの絵のように見えるのはすごいと思った。
- 雲にも地面にも金が使われていてきれいだった。
- 光の違いによって見え方が全然違って驚いた。
- 見る場所によって、見える風景が違ってすごいと思った。
- パッと見でもとても豪華な枝が、近くによってみると、とても細かいところまで描かれていて面白かった。
- 雲も地面も金色だったので、区切りを知りたいと思ったけど、見ているうちに気にならなくなった。
- 書くものが筆しかない時代に、あそこまで繊細な絵をかすれることなくかけるのがすごいと思った。
- 教科書で見るのと違い、人物に表情や動きがあっっておもしろかった。
- 屏風を直接見るのは初めてだったので、あんなに大きいと思ってなくて驚いた。
- 仏像をつくるような理由とは違い、ただ単に使う・飾るために作ったものなので、昔の人の技術力に驚いた。
- 金ぱくが生々しい描写を薄くさせていたように思った。
- びょうぶにすることで、便利なことがたくさんあることが分かった。

◇平家物語について

- 文章で習ったことを実際に絵で見れて面白かった。
- 授業で扱った内容を絵で見ると、より平家物語を深く感じた。
- 源氏が白、平家が赤であらわされていて、運動会の紅白につながることを知った。
- 歴史や古典の知識とか正直どうでもいいと思っていたけど、いろんな知識があったほうが、いろんなことを楽しめるので、たくさん学びたいと思った。
- 現代では平家物語は学校や一部の本でしか聞かないが、昔は常識扱いだったことに驚いた。
- 一つの場面を見ているだけで、人物の関係性や何が起きているかなど楽しく話せた。

◇こんなことがもっと知りたい

- 屏風と文を照らし合わせながら、平家物語を読みたい。
- 絵の具の使い方をくわしく知りたい
- 日本絵画のもっといろいろなものを近くで見たいと思った。
- 一つの絵に様々なエピソードが詰まっていて、扇の的以外についても知りたいと思いました。
- この屏風の持ち主が、どんなふうに使っていたのか知りたい。
- 日本の文化に興味を持ちました。東京国立博物館にも行ってみたいと思います。
- なぜ古典が古典になるのか気になった。
- なぜ本物が外国で保管されているのか

先生からのご意見・ご感想、参加者の反応など

日本の古典作品に、文字でないところから触れてもらいたいという希望があり、狙いは十分に達成できました。合戦の流れが追えるように、日本史の先生に事前に飛び入り授業をしてもらったのもよかったです。絵の見方も学べ、便覧からはわからないことも知ることができ、文化財を扱う仕事についても知ることができてよかったです。いつもと違う雰囲気には生徒は緊張していましたが、屏風に近寄って自分なりに解釈しようとしていました。

| | |
|---------|-----------------------------|
| 機関名 | 大田区立馬込小学校 (東京都大田区南馬込1-34-1) |
| 実施プログラム | プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう! |



| | |
|---------|--|
| 日時 | 2020年1月21日(火)10:25-14:20(3・4・5時間目) |
| 参加対象・人数 | 小学校6年生 3クラス(当日参加:合計97名) |
| 実施場所 | 図工室(校舎1階) |
| 講師 | 3・4時間目:西木政統、5時間目:小島有紀子(文化財活用センター企画担当研究員) |
| 輸送方法 | 日本通運の専用車両による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:くぶんかつ職員) |

利用者の目的・ねらい

図画工作:専任の先生より

「日本美術を知り、将来にわたって親しむ態度を育みたい」

実施までの流れ

実施2か月前に学校での打ち合わせを行ないました。屏風についての事前学習はすでに行っているとのことだったため、描かれたものをじっくり鑑賞して制作に結び付ける形となりました。事前打ち合わせは1回、FAXで2度ほど事務的な手続きについてやり取りを行ないました。複製品とキット一式は、前日に搬入し、2日後の返却で対応いただきました。

当日のプログラム内容

墨の表現をじっくり鑑賞した後に、屏風型のワークシートと松のスタンプを使って、自分だけの松林図屏風を作るという構成です。スタンプの配置や、スタンプにつけるインクの濃さを調整して、生徒さんたちは思い思いのミニ松林図屏風を作っていました。鑑賞の際には、屏風の調度品としての特色も学び、日本美術への理解を深めました。

事前・事後学習など

事前学習として、屏風について座学で学び、A4のプリント(ワークシート)一枚にまとめる活動を行っていたそうです。また、段ボールを材料にして、自分で好きな絵を描いた紙を屏風仕立てにする活動も行っていました。事前学習では、いろいろな色を使用した金の屏風を中心に学んだとのことでした。

また、担当の先生が大田区教研小中連携図工・美術研究部会のために実施した教員研修(本報告書22ページ参照)にも参加されており、本プログラムについて先生ご自身がよく理解されたうえでの実施となりました。

参加者へのアンケート内容紹介(一部抜粋)

◇屏風について

- 水ぼく画があんなにすごいと思わなかった
- すみの濃いうすいだけで遠近が表現されていてすごいと思った。
- 思ったよりも大きくて、スミだけでかかっているとは思えないほどこまかくかかっていた。
- よくみると、うしろの方に山が見えて立体的に見えるようになってすごいと思いました。
- すみだけで色々な色に見える技術がすごいと思いました。
- 木がかすれていたり、こくなっていたり細かさがすごいと思った。
- 木の遠い、近いが細かく表現していてとてもすごかったです。
- 思ったよりも迫力があって、びょうぶ自体が厚かった。
- 木に霧がかかっているところの色のこさなどを変えて表現していたり、自分がそこにいるような感かくで見れて面白かった。
- 霧とかかかっている様子が立体感があってすばらしかったです。
- すみ一色でいっぱい想像できるのがすごいなと思いました。
- とてもシンプルですみ一色なのに、絵が動きそうで面白かったです。
- すみと筆で絵をかいただけのものでも、いろいろなことをイメージできました。
- 本当に松林の中にいるみたいですごかった。
- びょうぶの高さや大きさがそうぞうしていた以上に大きくてびっくりしました。
- 松林図屏風を見て、これを書いた時間はいつか、これを書いた関津賀いつかなど、みんなで考えることが楽しかった。
- 木のかげなどが見える気がした。
- 書いてないのにきりだと思わせるのがプロの画家だと思った。
- 枝のふぶんの書き方がすごかった。
- すみだけでいろいろな色を表現していてすごいと思った。
- 筆で絵を書いただけのものでも、いろいろなことをイメージできてすごいと思いました。
- 屏風の季節は冬だと思った。

◇制作について

- みんな同じスタンプなのに、それぞれちがう作品ができてすごいと思いました。

◇こんなことがもっと知りたい

- 屏風を作っているところを見たいです。
- 筆者がどんな気持ちで書いたのかを知りたい。
- 他の屏風も見たいです。
- なぜそんなに絵がうまくかけるのかを知りたい。
- 今どんな時にびょうぶが使われて、だれがつくっているのかを知りたい。
- こういう絵をかくときの筆先や描いている様子を見たい。
- いろいろな画家さんの絵を見て、違いを見比べてみたい。
- そのような材質でつくられているのかなどを知りたい。
- 同じ作者のちがう絵も見たい。
- びょうぶは色々なことをイメージできるので楽しいです!
- カラフルなびょうぶも見たい。

先生からのご意見・ご感想、参加者の反応など

場所が図工室で行えること、説明や資材も児童に十分理解できるものでした。スタンプのワークショップを教員研修で事前に学び、大人でも楽しかったです。スタンプのみを使用することについて、制作の苦手な児童にも取り組めて、楽しめる内容でした。そして、思ったよりも屏風に関心を持っていました。

| | |
|---------|--|
| 機関名 | 大分県姫島村立姫島中学校・姫島小学校 (大分県東国東郡姫島村) |
| 実施プログラム | 東京国立博物館見学 + (プログラム①) 自分だけの松林図屏風をつくってみよう! |



| | |
|---------|--|
| 日時 | ①2020年2月13日(木)10:40-11:30(3時間目) ②2020年2月18日(火)9:25-12:05(2・3・4時間目) |
| 参加対象・人数 | ①中学校2年生 (合計13名) ②小学校1年生、2年生、3年生 (合計38名) |
| 実施場所 | 東京国立博物館本館(1室・2室)、姫島中学校・姫島小学校 |
| 講師 | 井上洋一(東京国立博物館副館長、大分県立美術館特別顧問) 松沼穂積(文化財活用センター企画担当専門職)・小島有紀子(文化財活用センター企画担当研究員) |
| 輸送方法 | 日本通運による輸送(搬入・搬出・開梱・梱包:大分県、大分県立美術館) |
| 主催 | 大分県、大分県教育委員会、姫島村、姫島村教育委員会、東京国立博物館、 独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団、 大分県立美術館、ANAホールディングス株式会社 |

利用者の目的・ねらい

「遠隔地(離島)の児童・生徒のみなさんに東京の博物館を体験してもらいたい」
 「ANAホールディングス株式会社の開発したコミュニケーション型アバターロボット
 「newme(ニューミー)」(以下、アバター)を使用した、東京国立博物館の見学」



アバターロボット newme(ニューミー)▶

実施までの流れ

アバターとはPCで操作して動かすことができる遠隔操作ロボットです。

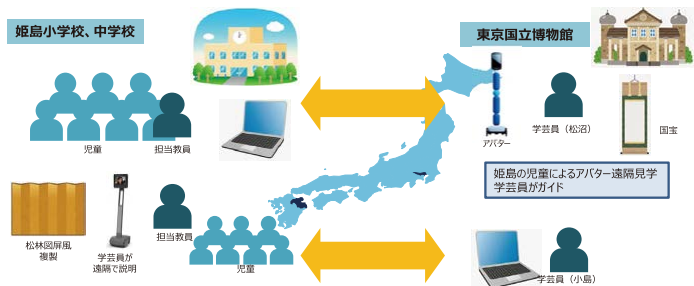
2019年夏に大分県情報政策課から、アバターを活用したトーハクの見学とそれに伴う案内・解説等の依頼をうけました。大分県ではANAと共同で、観光、教育などの様々な場面でアバターの活用事業を推進しているとのことですが、しかし、アバターの機能・性能(画像の解像度、首振り機能、高さの調整など)にいくつか課題があることがわかりました。ぶんかつでは参加者に、単に博物館という場所の体験だけではなく、文化財の鑑賞をしてもらいたい、という希望があったためです。当時、開発されて実際に使用されていたアバターでは、縄文土器の形はわかっても、そこに表現された模様を見ていただくことは出来ない解像度でした。

秋に再度ご依頼をいただき、両者の目的を共に達成するための方法を再度検討した結果、「トーハクの見学」と「鑑賞」を分けて行う形で対応することとしました。見学部分は、トーハク展示室にアバターを設置し、児童が遠隔操作をして見学を行い、鑑賞部分は、複製屏風を学校で鑑賞しながら、教室に設置したアバターをぶんかつの講師が遠隔操作してアウトリーチプログラムを行う形で検討に入りました。

実施にあたっては、事前に博物館内での走行テストや画像の見え方の確認を行い、遠隔授業のための進行台本を新たに作成しました。機材や授業内容について、数えきれないほどの確認を行った末、プログラムの最終原稿ができたのは授業前日夜でした。

当日のプログラム内容

当日は、アバターを2台用意しました。1台はトータルハクに置かれ、大分県・姫島の児童・生徒が手元のPCでリアルタイムで操作し、トータルハクを見学します。もう1台は鑑賞の授業を行うためのもので、姫島の中学校・小学校に置かれ、<ぶんかつ> 研究員が手元のPCを操作してアバターを通じてプログラムを実施します。



前半15分は子どもたちが姫島からトータルハクのアバターを操作し、展示室(本館1室・2室)をリアルタイムで見学し、トータルハクにいる講師と会話しながら自由に動き回り、埴輪や銅鐸など教科書でもおなじみの文化財を見てまわりました。後半は講師がアバターを通じて東京から姫島へ瞬間移動し、「自分だけの松林図屏風をつくってみよう!」のプログラムを実施します。アバターには講師の顔が映しだされ、あたかも教室にいるかのように会話を行いました。子どもたちは、姫島の教室に届いた国宝「松林図屏風」の高精細複製をじっくりと鑑賞し、それぞれのミニ屏風を制作しました。

(本実施例の問題点・今後の課題)

アバターはWi-Fi接続で通信を行う機器であり、接続が途中で切れるなどの問題が本番中に何度も発生しました。トータルハクの見学では本館1室・2室の見学を予定していましたが、結局各回ともに1室のみの見学で終了してしまい大変残念でした。後半の文化財の鑑賞でも接続の状態が安定せず、姫島の音声が入らないうちへ届かない、接続が切れるなどの問題があり、予定した内容全てを実施することは出来ませんでした。また、講師がアバターを操作しながら解説を行い、参加者の意見を聞いてみんなに共有し深めていく方法は、機械越しではなかなか難しいものがありました。沢山の課題が残る結果となりましたが、児童・生徒の皆さんの感想を聞くと、アバターを使用したプログラムの実施には、一定の意義があったと評価できるのではないかと思います。

事前・事後学習など

中学生は歴史の授業で縄文土器や銅鐸、埴輪などを学んでいましたが、基本的に特別な事前学習はなしでプログラムに臨んでいただきました。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋)

◇小学校1年生

- びょうぶが大きくてびっくりした
- ほんものの大きいびょうぶを見ることができてうれしかった
- つくった人のきもちが伝わってきた
- ほんもののびょうぶはどのようにするのかしらいたい

◇小学校2年生

- 山がかけていた
- とてもおもしろくて大きかった、びっくりした
- 黒だけでかかれていてすごかった
- はじめてびょうぶを見れてよかった

◇小学校3年生

- すみ(墨)だけなのがおもしろかった
- いがいと(線が)ほそかった、ぼやかしていた、まん中に何かありそうなきがした
- 大仏やほかのものも見てみたい!

◇中学校2年生

- 冬の季節の感じがした
- スタンプで作れるのが楽しかった
- びょうぶを見てすごいと思った。
- その場に行っていないのに、アバターを使って言った気分になれるからすごいと思いました。

その他

NHK大分放送局 「ニュース845大分」 2月18日で紹介
 OBS大分放送 「イブニングニュース」 2月18日で紹介
 大分合同新聞 2月17日、のりものニュース 2月18日など合計7媒体で紹介

| | |
|---------|---|
| 機関名 | 【教員研修】大田区教研小中連携図工・美術研究部会 |
| 実施プログラム | <p>プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう！</p> <p>プログラム② 屏風体験！松林図屏風をプロデュース</p> |



| | |
|---------|------------------------------|
| 日時 | 2019年10月2日(金)14:30~16:30 |
| 参加対象・人数 | 大田区小中学校 図工・美術教員(当日参加:約60名) |
| 実施場所 | 大田区立馬込中学校体育館(校舎1階) |
| 講師 | 小島有紀子・西木政統(文化財活用センター企画担当研究員) |
| 輸送方法 | 複製品の使用なし、キットのみ宅急便を使用 |

利用者の目的・ねらい

教員研修

「大田区の小中連携図工・美術研究部会の本年度の研修会テーマが“美術館と連携した鑑賞授業”のため、松林図屏風の複製を用いた鑑賞プログラムについて説明してほしい」

実施までの流れ

8月下旬に文化財活用センターで詳細な事前打ち合わせを行いました。研究部会の次第と目的を伺い、プログラム①および②両方を実施する方向で検討に入り、打ち合わせ後に研修の目的に合わせた案を作成して確認いただき、2回ほどやりとりを行いました。

当日のプログラム内容

美術館と連携した鑑賞授業を行った先生の発表、キヤノン株式会社の担当者による「綴プロジェクト」の高精細複製品(本プログラムで使用)の説明ののちに、〈ぶんかつ〉によるワークショップを実施しました。

ワークショップでは、はじめに「ぶんかつアウトリーチプログラム」の概要を説明し、パワーポイントに表示した松林図屏風を見ながら鑑賞の模擬授業を行いました。その後2グループに別れ、プログラム①と②を実際に体験いただきました。最後に東京都教育委員会から2020年度以降の鑑賞授業についての学習指導要領の説明がありました。

教員研修について(講師より)

教員研修の場で、教員を対象としたプログラムの実施は初めてであったこと、そもそも小学生を対象として作成したプログラムであったことから、先生方からどのような意見が出されるのかと若干の不安を抱えながらの実施でしたが、先生方からは「大人でも楽しい」「もっと時間が欲しい」といった感想を頂戴しました。そのほかにも、図画工作や美術の授業におけるねらいや目的に、プログラムの着地点をどのように落とし込めばいいかなどの意見交換を行いました。研修を行った〈ぶんかつ〉側も大変勉強になる研究会となりました。

| | | |
|--------------|--|--|
| 機関名 | 栃木市立都賀中学校 | |
| 実施プログラム | プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう! | |
| 日時(お貸出期間) | 12月16日(月)～12月25日(水) | |
| 実施場所 | 多目的室(校舎1階) | |
| 輸送方法 | 日本通運の専用車両による輸送、実施場所まで搬入(開梱・梱包などは先生による対応) | |
| 参加対象・人数 | 中学校1・2・3年生 4クラスずつ(合計344名) | |
| お申し込みの目的・ねらい | 美術・専任の先生より | |
| | 「なかなか本物を見せられる機会が無いので、ぜひ授業で見せて鑑賞教育を行いたい」 | |
| 実施内容 | 当センターから事前にお送りしたガイドをご覧ください、基本的な流れに沿って実施となりました。松林図屏風は美術の授業だけでなく、その後の特別授業などで調度品としても複製品を使用してくださったとのこと。 | |
| 先生のご意見、ご感想など | 講師派遣なしでしたが、資料などがわかりやすくとても良かった。 | |

| | | |
|--------------|---|--|
| 機関名 | 鷗友学園女子中学高等学校 | |
| 実施プログラム | プログラム③ 絵で読む平家物語 | |
| 日時(お貸出期間) | 2020年2月12日(水)～2020年2月25日(火) | |
| 実施場所 | 講堂、普通教室、多目的室など | |
| 輸送方法 | 日本通運の専用車両による輸送、指定場所への搬入と展示(開梱・梱包含む) | |
| 参加対象・人数 | 中学1年生～高校3年生とその保護者 | |
| お申し込みの目的・ねらい | 特別授業:日本史の先生より | |
| | 「詳細に描かれた作品を細かく読み解くことで、物語と歴史の照らし合わせをさせ、自ら興味を育てられるようにしたい」 | |
| 実施内容 | 特別授業で3回活用、それ以外にも空き教室で展示をしていました。1回目の特別授業は学校の卒業生である琵琶演奏者の方をお招きして屏風の前で平家物語「敦盛」「那須与一」の弾き語りを行い、2回目の特別授業では、国語科、美術科、歴史科の教科を横断し、先生が講師となってリレートーク形式で行われました。先生方の興味の対象が多様であり、かつ大変生き生きとした授業で、非常に面白く見学させていただきました。3回目は国語科との横断で授業を実施いただきました。空き教室の展示では、卒業生の方や他校の先生も屏風を見に来校されたとのこと。 | |
| 先生のご意見、ご感想など | 生徒は屏風の素晴らしさに食い入るように見ていました。申し込みのねらいは達成できたように思います。また、中学校2年生の古典のカリキュラムと合わせることができたので、より一層興味を持ったように思いました。授業だけでなく、自分のペースで鑑賞できる時間がとれるのが良かったです。また、教科横断など、3回の特別授業でそれぞれにインパクトがあったので、ほかの作品でもやってみたいと思いました。 | |
| その他 | 年度内2回目の申し込みでしたが、屏風を貸し出せるスケジュールであったため、特別に対応。(機会の公平性を保つ観点から、原則として1校につき当該年度内1度までの利用としています)。 | |

ぶんかつアウトリーチプログラム概要

実施方法 【A】複製品を含むキット貸出と講師派遣(要事前打ち合わせ)

講師は文化財活用センターもしくは、東京国立博物館の職員が担当いたします。

【B】複製品を含むキットの貸出

実施館の学芸員のみなさまや学校の先生にプログラムを行っていただきます(講師派遣はありません)。予約完了後、ご利用様のご都合に合わせて実施ガイドと複製品の取り扱いマニュアルをメール添付もしくは郵送でお送りし、貸出開始日に複製品とキットをお届けいたします。

料 金 原則として講師派遣費用を含め無料(ただし、キット一式に含まれない筆記用具、必要な画材についてはご利用者様でご用意いただきます)

申し込み方法 事前申込制、年間10件程度(先着順)。毎年、2月中旬頃に翌年度の受付を開始します。受付開始以降、実施希望日の2か月前までにお申し込みください。
(年間で10件程度、先着順で受付。すでに複製品の使用予定がある場合など、ご希望に添えず日程の調整をお願いすることやお断りする場合もございます。)

お申し込みの流れ

1. 申し込みフォームを送る

WEBサイトの「ぶんかつアウトリーチプログラム申し込みフォーム」に必要事項を入力の上、送信してください。受付は実施希望日の2か月前まで、フォームの受領順で受け付けます。

ぶんかつWEBサイト <https://cpcp.nich.go.jp>

トップページ「教育プログラムを利用したい」→「ぶんかつアウトリーチプログラム」へアクセス

WEBフォームでのお申し込みができない場合は、WEBサイト「ぶんかつアウトリーチプログラムQ&A」のページにあるFAX用紙でお申し込みください。

2. 実施可否のご案内

実施の可否について、文化財活用センターから1週間以内に電話でご連絡いたします。

3. 予約証が届く

(予約完了)実施可能な場合は、「ぶんかつアウトリーチプログラム予約証」をメールまたはFAXにてお送りします。予約証を受け取った時点で予約が完了します。
※予約完了後の日程変更はできません。

4. 事前打ち合わせ

【A】講師派遣の場合は必須)

実施予定日の2週間以上前までに、学習内容、当日の流れについて打ち合わせを行います。(講師が実施機関に伺います。訪問日程が調整できない場合や遠方の場合は、電話・メールなどでの打ち合わせとなります。)詳細な利用の目的などをお知らせください。

【B】複製品を含むキットの貸出)

ご要望に応じて、訪問・電話・メールなどで打ち合わせ可能です。ご希望の場合は、お申し込み時にお知らせください。

5. 使用キットが届く

複製品およびキット一式を送料元払い(または専用車両)にてお届けします。到着後は、必ず内容物一式の状態をご確認ください。

※【B】複製品を含むキットの貸出 をお申し込みの方は、複製品と一緒に送付する「複製品およびキット借用書」を、同封する返信用封筒にてご返送ください。

6. プログラムの実施

【A】講師派遣の場合)

文化財活用センター・東京国立博物館の職員が現地に出張し、プログラムを実施します。

【B】複製品を含むキットの貸出)

学校の先生や実施館の学芸員など、利用者ご自身にてプログラムを行ないます。

7. 使用キットを返却する

ご利用後は発送時に使用した資材で梱包し、利用期間内に送料着払い(または当方手配の専用車両)でご返送ください。

※今後のプログラムに活かすために、利用者アンケートを用意しています。ご意見、ご感想をお聞かせください。

Q. 複数のプログラムを申し込むことは可能ですか？

ご利用は1機関につき1プログラムまでとしています。ただし同一プログラムの複数回実施は可能です。講師派遣をご希望の場合、連続した日程であれば日をまたいでの実施も可能です。
(例：「午前2回、午後2回を連続した2日」「午前2～4時限目、翌日午前2～3時限目」など)

Q. 遠方の地域でも申し込みできますか？

複製品とキットが輸送できる場所であれば、全国どこでもお受けすることが可能です(原則として国内に限ります)。ご心配な場合は一度ご相談ください。

Q. 複製品とキットの貸出期間について教えてください。

複製品・キットの到着日(使用開始日)から最大で2週間(当センターへの返却にかかる輸送日数を含む)です。(例：2019年9月17日に使用を開始した場合、9月30日までに当センター必着で返却)

Q. プログラム実施の様子を撮影してもよいですか？

静止画・動画ともに撮影OKです。ただし、参加者に事前に許可を取っていただくようお願いいたします。また、広報媒体などにお使いになる場合は(WEBサイト、SNSなどによる発信、メディア取材)、事前にご相談ください。

Q. もし複製品が壊れてしまったら・・・？

利用者側で修理に出す必要はありません。到着時に壊れていた場合は当センターまで電話連絡の上、同封する「ぶんかつアウトリーチプログラム複製品・キット借用書」へご記入いただき、ご返送をお願いいたします(書類返送は【B】複製品を含むキットの貸出 の場合のみ)。また、使用中や使用後などに破損した場合は、まずは当センターまでご連絡ください。※

※利用者の故意または重大な過失による破損であると当センターが認めた場合は、損害を弁償していただきます。

おわりに

2019年度に実施した「ぶんかつアウトリーチプログラム」の構成と、プログラムの実施例を紹介をさせていただきました。2020年度はプログラムを増やして実施する予定です。

私自身が本プログラムを担当し、その開発にあたって考えたのは、自分がどのように日本の文化に興味を持ったのか、ということでした。幼少期の体験が大人になってからの行動に影響するのは周知の事実です。私の場合は、幼稚園の時に連れて行ってもらった美術館の特別展がきっかけでした。東京国立博物館でお会いするお客様はすでに日本美術に興味がある方がほとんどで、おそらく、文化や文化財との様々な出会いがそれまでにあったのだと思います。

現代の日本社会では、国公立、私立などの区別があり、6-3-3制でなく、4-4-4制を採用している学校があることから分かるように、教育もある程度自由に選択できる時代になりましたが、今の日本経済の格差はあらゆる分野で格差を生じさせています。教育分野もまた然りです。全ての子供に保障されている義務教育のカリキュラムでは、校外学習の時間が十分に確保されているとはいえず、出られたとしても社会科見学が精いっぱい、学校の先生からは図工や美術で美術館や博物館へ行くことはもはや不可能という声も伺いました。そうすると本物を見る機会は、特に家庭環境によるところが大きくなります。また、都市と地方ではいろいろな面でやはり差があります。例えば「これが今すぐ必要だから買いに行こう」と思って、すぐに手に入る場所とそうでない場所があるのと同様といったところでしょうか。

博物館のお客様から「学校の授業で見たけど、よくわからなかった」「興味をもてなかった」「どう見たらいいかわからなかった」などのお声も聞きます。そういった方に今からでも楽しんでいただけるプログラムを開発することはもちろん大切です。しかし、私が危惧しているのは、そういった経験すらできない、文化財を見る・知る・感じる・楽しむといった行為の存在すら知らないまま成長する子どもが多くなるのではないかと、ということです。

日本には人の手から手へ渡され、受け継がれてきた文化財が数多く存在します。これらを100年後、1000年後へ受け継いでゆくための、小さな小さな活動ではありますが、ぶんかつアウトリーチプログラムが将来の日本の担い手の育成につながることを願っています。

小島有紀子
文化財活用センター企画担当研究員

2019年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書

発行日 令和2(2020)年7月31日
編集・発行 独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター、東京国立博物館
デザイン 平ノ内明子
印刷 大協印刷株式会社

※本報告書に掲載したプログラムでは、綴プロジェクト(主催:京都文化協会/共催:キヤノン株式会社)で制作された高精細複製品を使用しました。
※本プログラムはキヤノン株式会社と国立文化財機構による「文化財の高精細複製品の制作と活用に関する共同研究プロジェクト」の一環として実施しています。